

再 評 価 調 査 書

整理番号	4
担当部課名	土木部道路建設課 県道担当

1 事業概要

(1) 事業名	地方道路整備事業	(2) 名称	主要地方道 水戸那珂湊線
(3) 事業主体	茨城県	(4) 箇所名	ひたちなか市磯崎町～阿字ヶ浦町
(5) 採択年度	平成28年度	(6) 完成予定年度	令和9年度
(7) 事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ひたちなか地区の混雑緩和や安全で円滑な交通の確保を図る。 ・地域間の連携を強化し、沿線の観光資源を活かした観光振興や交流人口の確保を図る。 ・市街地や那珂湊港から茨城港常陸那珂港区へのアクセス性を向上し、産業競争力の強化を図る。 		
(8) 事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事業延長 L=2,900m ・計画幅員 W=12.5m (歩道2.0m、自転車道3.0m (海側)) ・用地買収、道路改良工事、舗装工事 		

2 再評価の理由

(1) 再評価の理由	再評価 (事業内容及び事業費の変更)	(2) 当初完成予定	令和9年度
(3) 未着工・事業が長期間要している理由	—		
(4) 前回指摘事項に対する対応状況 (再々評価の場合)	委員会の意見	対応状況	
	—	—	

3 事業計画の変更

(1) 完成年度の変更	—		
	【理由】 —		
(2) 事業内容の変更	【理由】 当該事業区間が「いばらき自転車活用推進計画-大洗・ひたち海浜シーサイドルート」の一部に位置づけられたことから、自転車道L=3.0mを整備することとし、道路幅員を10.0mから12.5mに見直しを行った。		
(3) 事業費の変更	2,670百万円 → 3,000百万円	330百万円増	
	【理由】 「自転車の通行空間整備に伴う幅員の増および線形変更」に伴い、工事費、用地費、補償費の増により事業費が増加したことによる。		

4 進捗状況と今後の見通し

(1) 事業進捗状況	全体	前年度	前年度まで	進捗率	
事業量(m)	2,900				
事業費	工事費	1,520	30	660	43%
	用地買収補償費	1,480	20	120	8%
	計(百万円)	3,000	50	780	26%
(2) 関連事業の進捗状況	—				
(3) 今後の見通し	工事		用地等		
	全体を3工区に分け、南側1工区から集中的に事業を進め、用地買収の完了した箇所から順次工事を推進し、早期の整備効果発現を目指す。		1工区の残る用地の取得に努めるとともに、2工区の用地交渉を順次進めていく。3工区は、早期に設計をまとめ用地測量に着手していく。		

5 評価内容

(1) 事業の必要性	当路線は、ひたちなか市の国道245号と茨城港常陸那珂港区を結ぶ幹線道路であり、沿線には国営ひたち海浜公園や阿字ヶ浦海岸などもあることから、地域の振興を図る上で重要な役割を担っており、混雑緩和や安全で円滑な交通を確保することで地域連携・観光振興・産業競争力の強化を図ることができる。 また、地元では関係者で構成する協議会が設立されるなど強い整備要望がある					
	社会情勢等の変化に関する指標1	計画時の状況	現時点での状況	社会情勢等の変化に関する指標2	計画時の状況	現時点での状況
	磯崎港線 交通量	7,007台/日 (H22セナス)	8,671台/日 (H27セナス)			
(2) 事業の有効性	当路線の整備により安全で円滑な交通の確保や、茨城港常陸那珂港区への物流の効率化が期待できる。また、国道245号の交通を分担し、渋滞緩和緩和に寄与する。					
	効果予測に関する指標1	事業なし	事業あり	効果予測に関する指標2	事業なし	事業あり
	国道245号 ひたちなか市内通過時間(R12)	15.1分	14.3分	国道245号 (並行道路)交通量 (R12)	25,000台/日	24,600台/日
	効果算定要因に関する指標1	事業なし	事業あり	効果算定要因に関する指標2	事業なし	事業あり
	計画道路将来交通量(R12)	2,800台/日	4,300台/日			
(3) 事業の効率性	ア) 主な効果 (B) ①当該路線の整備により、ひたちなか市磯崎町～阿字ヶ浦町までの約2.9km区間及び周辺道路において、走行時間の短縮(約2,800百万円)、走行経費の減少(約490百万円)、交通事故の減少(約60百万円)が図られる。(合計 約3,350百万円) ②国道245号の交通量が減少し、主要幹線道路の沿道環境が改善される。 ③ひたちなか市内の交通混雑が緩和されると共に、海浜公園や阿字ヶ浦海岸へのアクセスが強化される。 イ) 主な費用 (C) ① 事業費 2,430百万円 ② 維持管理費 170百万円 計 2,600百万円 主な効果のうち貨幣化が可能なア、イについて事業の効率性を分析した結果は以下のとおりである。 参考となる指標 B/C = 1.3					
(4) 地元の意向	県道水戸那珂湊線道路整備促進協議会からの早期整備要望がある。					
(5) コスト縮減や代替案立案の可能性						

6 対応方針

引き続き、整備効果を最大限発揮できるよう、早期全線供用を図る。

7 再評価委員会の意見

継続することが妥当である。

8 委員会の意見を踏まえた対応

委員会の指摘を踏まえ、部分供用による効果の早期発現を含め、現計画に沿って早期完成を目指し事業を進める。

